

昭和四年九月招集(第一号)
第三回市議会定例会入会議錄

館山市議会第三回定例会（第一号）

昭和四十二年九月招集

一九月三十日（土曜日）

一現在議員三十名でその氏名次々と

一番	吉田 勇治郎	二番	石井 輝久
三番	鳩田 石蔵	四番	伊賀 夕朗
五番	藤田 益治	六番	磯辺 博
七番	白熊 盛太郎	八番	黒川 正
九番	三幣 勇	一〇番	西村 真次
一番	菊井 敏博	二番	小柴 孝
三番	山田 教字	四番	遠山 ヨネ子
五番	石井 正	六番	五十嵐 昇
七番	江田 徳太郎	八番	安西 益男
九番	島野 茂樹郎	一〇番	中村 省吾

二番	関 武夫	二番	小澤恵太郎
三番	飯田義男	四番	田中祿郎
五番	田村源治郎	六番	秋山六三郎
七番	安天徳順	八番	望月照正
九番	鈴木市蔵	三番	山口 康

一、議事日程(第一号)

第一 報告第四号 安房中央土地改良区、経営状況説明書、提出について

第二 議案第四十三号 館山市青年館、設置及び管理に関する条例、一部を改正する条例の制定について

第三 議案第四十四号 館山市取資、勤務時間、休日、休暇等に関する条例、一部を改正する条例の制定について

第四 議案第四十五号 館山市中小企業資金、融資に関する条例

の二部を改正する条例の制定について

第五 議案第四十六号

社会福祉法人の助成に関する条例の制定について

第六 議案第四十七号

損害賠償の額を定めることについて

第七 議案第四十八号

館山市職員定数条例の二部を改正する条例の制定

について

第八 議案第四十九号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する

第九

条例の二部を改正する条例の制定について

第十 議案第五十号

館山市長・助役・収入役の給与及び旅費に関する

条例の二部を改正する条例の制定について

第十一 議案第五十一号

市道路線認定について

第十二 議案第五十二号

館山市一般会計補正予算（第二号）

第十三 議案第五十三号

館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

第十四 請願書

一、決算百三十一系による出席説明員

鳥山市議會

市	長	本間	謙
助	役	小出	武男
収入役取務代理	角田	巖	
秘書課長	小倉	澄男	
人事課長	小沢	正治	
企画課長	谷貝	茂生	
庶務課長	山口	実	
財政課長	長谷川	宏治	
市民課長	羽山	房雄	
調査課長	高木	哲	
収納課長	多田	俊一	
農林水産課長	伊藤	幸太郎	
商工観光課長	山田	俊康	

土木課長	建築課長	衛生施設課長	保健衛生課長	福祉事務所長	教育長	教養庶務課長	学校教育課長	社会教育課長	消防長	消防本部次長	警務管理委員会	監査委員会	事務局次長	農業委員会	事務局次長
------	------	--------	--------	--------	-----	--------	--------	--------	-----	--------	---------	-------	-------	-------	-------

新井重助	池田春雄	吉田耕一	綱島憲治	池田亮山	押本禧逸	干場伊右門	山根春夫	源間利一	星野清之助	石渡東	大嶋重義	館石勘治	島山市役所
------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-----	------	------	-------

診療所事務長 野中圭太郎

一本議会の事務局長 局長補佐 及び書記 取負

事務局長 高梨清一

事務局長補佐 太田博雄

書記 矢藤恭一

司 青藤武男

同 庄司徹

同 島田守

一出席議員 二十九名

一欠席議員 一名

議長(吉田勇治郎君)本日、出席議員數 二十七名。

こより第三回市議会定例会を開きます。

本定例会の議案審査、必要上、地方自治法第百二十一条の
規定による出席要求に對し、本間市長、小出助役、小
沢課長、山田課長、小倉課長、山口課長、長谷川課長、
谷貝課長、池田課長、新井課長、伊藤課長、羽山課長、
高木課長、多田課長、池田所長、網島課長、吉田課
長、大嶋書記長、館石局長、島山局長、星野消
防長、石渡次長、野中事務長、角田主事、押本教育
長、千場課長、山根課長、源間課長、以上、者が出席
する旨、報告がありました。

監査委員より、七月及び八月実施の監査結果が報告さ
れております。それをお手元に配付し、印刷により御了
承願いたします。

会議録署名員が決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に四番議員伊賀多朗君、
二番議員望月照正君、以上両君を指名いたします。
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決定い
なしました。

会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき議会議長が協議会が意見は本
九月三十日より十月六日までが七日間というところでありま
す。おはかりいたします。

会期を七日間と定めます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって会期は九月

三十日より十月六日まで、の七日間と決定いたしまして。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

こゝより本定例会の案件につき市長の説明を求めます。

(市長 登壇)

・市長(本間譲君) 本日ここに第三回定例市議会を招集いたし、当面する諸議案について御審議をわすらわすわけであり、また、が会議に先立ちまして、簡単な付議事件の御説明を申し上げて皆さまの方の御賛成をお願い申し上げます。ごさいます。

まず報告関係では、安房中央土地改良区に対する経営状況説明書の提出がありますが、これは市が当改良区に損失補償を行なっております関係から、法に規定するところに従って団体や経営、執行の適正な運営を公表するため、議会に説明する書類を提出するわけであ

ります。

次に一般議案関係といひまして、まず青年館の設置及び管理に関する条例の一部改正でありますが、これはかねてより青少年の話し合いの場、いこい場として、八幡青年館及び新宿青年館の二館が完成を見ま—たりて、この条例の中に新たに加えようとするものであります。次に市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正であります。これは職員の日、休暇などの勤務条件について条例の整理を行ない、職員の仕事量を適度にして勤務意欲の高揚をはかりたいとするものであります。

次に中小企業資金の融資に関する条例の一部改正であります。これは中小企業者に対する資金の融資をさらに弾力的に保護するため、今回貸し付け限度を

五十万から百万円に引き上げ貸し付け期間を延長などはか
るとともに県信用保証協会が行なう特別補償制度等
を考慮して既設条例を整理して中小企業者、振興
いきすようはかるものであります。

次に社会福祉法人の助成に関する条例の制定でありま
すが、今回市社会福祉協議会が新たに社会福祉法の定
めるところにより社会福祉法人として認可される関係から
こよう団体について条例で定める範囲内での助成を行
なおうとするものであります。

次に損害賠償の額を定めることについてであります。こ
は去る七月二十七日の火災出動の際消防車がたまたま交通
事故を起こして今回こよう通行人等を含む被害者
こよう間に話し合いも整いまらなうで損害賠償の額につい
て議会御賛同を経てつくないといいたいと存する

ものであります。

次に市職員定数条例の一部改正であります。これは常勤勤務する一般職員に属するものゝ条例体系を各執行機関及び行政機関ごとに判定、合わせて事務改善後新たに増加した行政事務に対応して配置転換の定数を明確にしようとするものであります。

次に市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部改正。また教育長、諸給与及び勤務条件に関する条例の一部改正であります。これは過日特別職等報酬審議会が答申によりまして本年十月一日から、それぞの職員とう均衡をはかるために報酬を引き上げようとするものであります。

次に人権擁護委員候補者についてであります。これは人権擁護委員法が規定するところにより、任期満

了になつた委員において当該市議会議員の選挙権を有する者やう候補者七人を法務大臣に推薦しようとするものであります。

次に市道線の認定についてであります。これは航空隊地先道路及び布良地先道路の一部を新たに市道線と認定の上、これが道路の維持、管理に万全を期せうとするものであります。

次に一般会計、国民健康保険特別会計の補正予算でございしますが、まず一般予算中おもなものは、さる十月、館山において開催される国際ロータリー第三五七区年次大会の補助金五十万円、固定資産税家屋評価にえに伴う、税務関係調査費におきまして、百四十万七千円、選挙費については十一月五日に予定されております。参議院地方選出議員補欠選挙百三十七

万円などがあります。民生関係としまして児童福祉に
 関連する八幡青年館の増額分四十三万五千円、保育関
 係経費四十六万余であります。

農林水産関係では県に対する平久里川河口潮止め
 用水用事業負担金百万円、商工関係では海岸キ
 ャニア監視員、公務災害補償百三十六万円、土木費
 では、市営住宅関係、公有財産購入費五十万円、

消防費については火災出動中、消防車が誘発した
 交通事故による損害賠償の額二百八十六万余円、教
 育費では総務費中、学校環境衛生調査器具購
 入費二十三万四千円、

小学校関係では館野小学校校舎却炉工事、交通安
 全指導用自転車購入、畑小視聴覚教材購入約
 十一万円、中学校関係では西岬中給水タンク設置工事

十万円、西岬中、二中敷地賃借料十三万二千円、県体参加補助金三十万円、理科教育設備をはとり教育振興費二十一万四千余円、館山高校敷地購入費十一万四千円、社会教育費として文化財保護協会補助二十万円、日本刀鍛錬所建設補助六十四万、市民センター建設費では開発公社土地購入費分割払い分百八万円、監督料委託料五十万円、保健体育費ではスポーツ少年団指導者費用等償体育協会補助など三十八万八千円であります。

以上歳出合計千三百七十六万八千円となり、この財源として、国県支出金四百八十九万六千円、その他特定財源八十九万九千円、その他は一般財源をもって充当しようというものであります。なおこの補正予算に合わせ、消防車購入費百九十一万円、債務負担行為をお願いする次第でございます。

次に国民健康保険特別会計補正予算であります。が
事業勘定についておまなものは診療施設勘定への
繰り出し五十五万六千円、直診勘定施設については手術照
明灯十六万、医薬品衛生材料費六百三万五千円がおまなる
もので今回、追加額七百二十九万六千円でございますが、この財
源としましてはおまに一般財源で充当しようというもので
あります。

なお、この会期中に目下欠員中の教育委員会委員並
びに監査委員の選任につきまして上程する予定であります
ので、選任につきまして上程する予定でありますので、選
任について御同意されますようお願い申し上げます。次第
でございます。なお、詳細につきましては、関係課長から
説明申し上げますので、慎重審議をお願いする次第
でございます。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十時三十二分

休憩

午前十時三十五分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

この際日程についておはかりいたします。

日程第一より日程第十まで諸議案を一括上程し二に
は説明をまず求めたいと思ひます。(二にに御異議ございま
せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。さう決まりま
す。日程第一報告第四号日程第十議案第五十三号までを
一括上程し、それぞれ説明を求めます。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)報告第四号について御説明
 申し上げます。目下丸山町の大地先におきまして建設
 中の安房中央ダムの建設に当りまして地元の負担金
 として県に納入いたします資金の一部といたしまして、
 農林漁業公庫から借り入れをするに当りまして市
 が土地改良区に対する損失補償を行なうておるわけで
 あります。

そのために自治法の規定によりまして四十一年度の事業内
 容及び四十二年度の事業計画について経営状況を本
 報告書によりまして議会に提出いたしたものであります。
 別紙に四十一年度の事業報告と並びに四十一年度の決算
 書それから四十二年度の事業計画及び四十二年度の予算
 書を添付してございます。経営状況の内容につきま
 しては御参照をいただきますと考えるわけでございます。

よろしく願います。

・福祉事務所長（北田亮々君）議案第四十三号について御説明申
上げます。

青年館の設置及び管理に関する条例の中より別表を改正で
てさせていただきます。

今般四十二年度の青年館建設計画の中ります。二館が竣
工いたしましなうで、別表の大館に加えまして館山市八幡青年
館と新宿青年館の二館を加えまうとするもうであります。
なお、八幡青年館は九月二日、新宿青年館は八月三十日
にそれぞれ竣工いたしてあります。以上。

・人事課長（小沢正治君）議案第四十四号について御説明申上げ
ます。市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する
条例の一部改正でございますが、今回取り上げまうの間
題は、休日、休暇関係でございます。従前う条例におきま

して若干不備な面がございます。関係をこの際整備しようとするものであります。従来地方公務員の休日・休暇関係に關しましては、國家公務員に準じて、条例が制定されておたわけであります。その後労働基準法の施行、さらに地方公務員法の施行という關係から原則的に國家公務員法には労働基準法の適用がない。地方公務員には労働基準法の適用があるというところで、このうち条件を満たす条例規定の整備が若干欠けておた面があるわけであり、ます。一か一ながら、取り扱ひの突進といった一まゝでは、このうち關係を十分具備するように取り扱ひておたわけであり、ます。この際、そういふ扱ひが當然、条例に基いて正式に行なわれる形を取りたい。このううことでございます。

条例の内容を逐条的に申し上げますと、第三条でござい

が、「日曜日は勤務を要しない日とする。」というだけでござい
ます。この関係は市や各機構を見まわした場合に一律に
日曜日だけというルールで規定が運用上、日曜日以外を
休みないような形が不備でございすので、それぞ「任
命権者は特別の勤務に従事する職員については前項
の規定にかかわらず、毎週一回または四週を通じて四
日の割合で日曜日以外の日を勤務を要しない日とす
ることができると。」という事で日曜日よりふりかえ休暇を
設定するわけでございす。

第六条の休日関係でございすが、これは休日は次のとお
りとするということとで第一に国民の祝日、第二に休暇日と
いたしまして一月二日、三日、十二月二十九日から三十一日という
ことであります。これは御承知の如きように国民の祝日
は法律によって定められておるわけでございすが、これを

単に国民の祝日と一ないではつきりと「国民の祝日」に関する法律に規定する日」であるということとを明確にいたし、またさらに休暇日というのを休日という中でいうという二つとも条例の制定方式としては不備だということからうたい方を整備したわけでございます。

それから有給休暇に關しまして従前の条例でございますと年次休暇からさらに特別休暇、生理休暇、産前産後、休暇、引付休暇という二つから単に給料という言葉と使っておりますので、これもはっきりと有給休暇の種類をあらわすわけが、六種類があるということとを明示いたしまして。

第二項といたしまして年次休暇を除くその他有給休暇の継続する場合の日数の計算の仕方、また第二項でうたわけてございます。年次休暇以外の休

暇につきまゝでは間に日曜日や休日かはさなくても、それを休暇の期間とするということでございます。

第七条でございますが、これは国家公務員にならなくては、ちよつとまずいというものは、国家公務員が労働基準法の適用を受けない。地方公務員は基準法が適用を受けると、適用という関係でまずいので、国家公務員は年間二十日という有給休暇を決定しております。労働基準法では、一年の勤務日が一割以上を完全に勤務した場合、翌年において六日休暇を与えなければならぬといひますが、原則でそれが勤務年数が一年ふえるごとに一日ふやす。一か一二十日が限度だということ、これが適用されるわけでございます。それとさらに労働基準法が百十五条におきまして、一応、こう年次休暇につきまして、職員が請求権というのを考えておるわけでございます。

請求権の時効を一定二年ということでございます。

そういう関係でこの年次休暇最初一年にありま
 場合に翌年にそれを繰り越して請求することができ
 るかどうか、というふうな問題でいろいろ論議があつた
 わけでございますが、最近におきましてよく定説化
 いたしまして二年間請求する権限があるという考え方
 そういう説が定説化して参つておりますので、例えば
 四十二年度中に二十日年次休暇を請求する権利
 があるものが、十日が使わなかった場合に残つた十日は
 翌年に繰り越して使えるという関係がございますので
 これははっきりと条例の中で明確化しようとするもので
 ございます。これが第七条の関係でございます。現在
 条文が第五項までございまして、その次に第六項と
 いたしまして、翌年に限って年次休暇を繰り越すを認

次に第七条より次に第七条より二という一条設定でござい
ますが、この関係は従前国家公務員にならうという現実と
しては取り扱っていただけませんが、条例ではつきり
と明文規定がなかったというわけでございます。

この療養休暇の期間に關し、まゝでは國家公務員

は、大体一年という設定をしておりますが、これはいろいろ事情を勘案いたしまして、その年限関係につきまして、別に市長が定めろという方法を取りたいと思ひます。それから第二項につきましては、結核性疾患以外の諸傷病のために療養を必要とする場合、または就業を禁止された場合というふうになっておりますけれども、普通傷病の場合と労働基準法で定められておるところ、任命権者が労働者の意思に反して就業を禁止しなければならない規定がございます。例えば伝染病であるとか、或いは伝染性の疾患で就労させることによつてますます病勢が悪化するおそれのある場合、これは医師の確めに基いて、それに対して、最少限度必要と認める期間を就業禁止、或いは療養休暇禁止、また日数傷病がなおる日数を療養休暇として与える

ことが出来る。ただし、その療養期間は九十日を越えることができない。それから第八条の關係でございすが、これは、現在、市条例では特別休暇という設定でございすが、第二項で任命権者が長期間にわたって連続的に休みの日に於て勤務した場合に職員に対して三日以内の特別休暇を与えることができるとなっておりますが、これは現在、時点に参りますと現実には即さないという面があるわけでございます。そこで第二項を全文改正いたしまして、前項に規定するもののほか、市長が定める特別の理由がある場合には任命権者が職員に対して、期日を切つて特別休暇を与えることが出来る取り扱いをいたさないわけでございます。

それから第十二条、第十三条に關しましては、用語の整理でございします。

休養とか服喪とかいう言葉をはつきりと休暇扱いであるということを明文いたしておきたいわけでございます。

休日・休暇関係の整理をいたしますと同時にこれらに関連いたしますところの給与関係があるわけでございます。まして給与面の中やこれらに関連する用語の箇所がふて参りますので、ここで館山市職員給与条例の十一条第二項或いは同条第三項の休日・休暇関係の扱いに關しまして、この条例と取り扱う内容が一致するよう表現を整備しようとするものでございます。

以上でございます。

商工観光課長(山田俊康君)議案第四十五号について御説明申し上げます。

中小企業資金の融資の条例改正の一部改正でございますが、この条例は昭和三十三年に制定されて判定当

時は貸し付け限度額が二十万でありました。

三十八年に五十万に増額されて現在まで参っております。
今回百万月に運転資金、設備資金とも、増額しようとするわけでございます。

現在う館山市の商工業者の状態からいまして、また物価等の関係からいまして、当然改正していかないと中小企業者の運転が十分にできないという状態になっております。

千葉県下の各市の預託融資関係を申しますと、運転資金で百万月以上を貸し付けているものが十一市、千葉百五十九市、市川二百万、市原二百万、設備資金については十三市、なお設備については特に三百万、野田と特異なところもございます。館山市の場合も今までの額ですと相当低いために運転資金が運転資金でなくなつて固定

化しつつある。この際どうしても額をふやして或いは設備
資金等も額をふやして設備らしい設備がでさるよう
にということでもさういう配慮から設備資金についても
お願いしたい。

条文中申しますと第三条の關係ですけれども二号の「銀
山市内で一年以上事業を営み市税の完納者であること」
これは従前の条例の中におきまして二号三号も二号に
一本化したわけでございます。

第三号の「担保または連帯保証人があること」従前は
連帯保証の關係が第六条第一項にかかておりました
もうを貸し付け關係の中に入らないたというもので
ございます。そうしてただ書に「千葉県信用保証協
会の行なう特別小口保証を受ける者はこの限りで
ない」と申しますのは、千葉県信用保証協会これは国

果、市町村等で実施して各都道府県にできております。特別小口保証制度といひますのは、商業・サービス業の場合ですと使用者二人以下、それ以外の業種ですと五人以下の従業員を使っているもの保証申し込みをしようとするものが一年以上、その土地において同一事業を営んでいる。そうして当該企業者が税金を完納している。そういうもののについて特別に申し込みがなければ信用保証協会が五十万を限度として無担保、無保証で保証するという制度があるわけです。その制度を利用した場合にはこの限りでない。これは従前ほかの条項において小切手や割引引き保証とかそういうものを果て信用保証協会に申し込みで三十万すでに保証を受けているというような場合に五十万が限度でありますので、二十万だけが、それが当然になるということでございます。

保証料としては、三厘二毛でございます。従前行なりお
りまいなものは三厘六毛でございます。

貸し付け限度額、従前は「五十万円以内とする」というふ
うにうたっておりますものを運転資金で百万円、設備資
金で百万円、貸し付け期間においても同じように従前
は六ヵ月以上一年以内というふうにありまい。今回「運転
資金については一年以内」、「設備資金については二年以内
というふうに改正まい。運転資金に従前より六ヵ月以
上一年以内というのがありまい。それを取ったのは夏季に
特に大月償借し入し申し込みをいたしまして九月には返
りたいという場合、二、三ヵ月で返りたいという場合もあり
ますので「一年以内」ということで改正いたしまして、なお
資金の預託額と関係であります。預託は現在日本
相互銀行に二千万円しております。

預託額、倍率は三倍というところで六千万までということであり
またが、融資に関する条例の一部改正をするに当りまして
日本相互銀行と交渉いたしまして、これは融資委員会、或
いは市長等からも強い要請がありまして交渉いたし
ました結果、預託額、四倍、それより五倍まで出せるよう
に現在、支店長自身としては特別四倍までということでは
五倍まで貸し出しができるように本店にもいたしますので
という確約をいたしまして、現在市が預託しております
二千万の額、範囲内において増額された部分について、
運営はまかない得るという見通しがありまして、お願
い、に次第でございます。

・福祉事務所長（池田亮山君）議案第四十六号について御説明
申上げます。

本案は、今般、社会福祉協議会が法人化されることになりま

一に於てそれに伴ひまゝ本条例を制定する必要が生
じなければなりません。

第一條の趣旨にございますまうに社会福祉事業法によ
りまして社会福祉事業を行なう社会福祉法人に対す
る助成について必要な事項を定めるところでございます。
ます。

五十六條の第一項の規定と申しますのは「国または地方公
共団体が必要あると認めるときは当該地方公共団体の条例
で定める手続に依り社会福祉団体に対し補助金を支
出し」と云々という規定がございます。従つて法人化さしま
すと五十六條第一項の手続を規定する必要が生ず
るわけでございます。

従つて本条例案は助成する。一ないということう条例と申し
ます。やはりむしろ法律でござつております助成の方法

と申しますか、その手続きについて規定をするということでは
ございます。

第一条は趣旨でございます。第二条は助成の範囲でござ
います。

これは市長が必要と認めるときは予算の範囲内において
助成することができるといふわけでございます。

第三条は申請の方法でございます。助成を受けようとする
社会福祉法人は次の書類を添えて市長に提出しなければ
ならない。一号から五号までの各提出していただきます
助成金を受けようとする場合の手続きでございます。
三条は本案の中心となる規定でございます。

次に第四条は決定でございます。市長は前条の申請
を受理したときは助成の目的を有効に達し得るか否かを
審査して助成の可否を決定し、その結果を速やかに

申請者に通知するものとする。」「このようにしてでございます。
 第五条は「この条例に定めるものうほは、助成の手続きに必要な
 な事項は規則で定める。」「規則へう委任でございます。
 以上。

・消防長（星野清之助君）議案第四十七号、損害賠償の額
 を定めることについて御説明申上げます。

その前に一言、去る七月二十四日消防の事故につきまして
 は非常に皆さま方に御心配をおかけいたしまして、
 ございしますが、この機会に改めて深くおわび申上げます。
 また同時に以来、今日まで、何かと多大の御配慮をいた
 だきまして、この機会に厚くお礼申し
 上げます。

議案でございしますが、損害賠償の決定額は合計で二百
 六十三万七千五百一十五円、内訳は館山市北条一七五九、

石井政治様分につきましては建物補償が三十万円、物品補償
三万円、休業補償七万円、見舞金二十万円、計六十万
円でございます。

次に館山市北条一七六九番地、安田欣次様分につきましては
建物補償八十九万円、物品補償八十万円、休業補償
十一万、見舞金二十万円、医療費十二万二千円、計二百
万二千二百二十円でございます。

その他館山市北条一五四二佐藤文子様分につきましては
一万九千五百円、北条一五四二番地高木雪江様分につ
きましては一万七千五百円以上でございます。

・人事課長（小沢正治君）議案第四十八号について御説明申
上げます。

職員定数条例の一部を改正する条例でございますが、
職員定数に關しましては、各任命権者別に七種類

でそれぞ一定数が設定されておるわけでございますが、最近におきまして各任命権者別の定数の関係と予算において承認をいただきまして定数との関係が一致しないようなことが出て参りまいらうで。この際予算書で議会が御承認をいただいた定数とはつきりと相応するよう修正をいたしまして今後増減を生ずる増減場合は予算の増減と同時にそれぞ増減の事情を明らかにしまして条例の改正と同時に参りないというふうな考え方からここでいったん昭和四十二年度当初予算に給与明細費の中ではつきり議決をいただきまして定数と合致させて整備をいたないというものでございます。それと最近の定数条例の表示の仕方及び県下各市或いは県が設定の仕方を見て参りますと一括した形がほとんどでございます。ましてそれにならういましてやりたいということでございます。

そこで第一系は定義でございますが、従前の条例を見ますと特にカッコ書の中で「雇用人及び嘱託を含み、助役及び収入役並びに二月以内の期間を定めて雇用されるものを除く」というようなカッコ書があるわけでございますが、これは地方公務員法の施行後におきましては、このカッコ書は法律で明文化されておりますので改めて市の条例でカッコ書をうたう必要がないことと。うたうならば改正条例でカッコ書のうたうに「教育長及び臨時的任用の者を除く」ということで足りるわけでございます。

第二系で職員は定数でございますが、現在予算で御承認をいただいておりますが、総数が二百八十九人が市長部局の職員でございます。

議会事務局四名、教育委員会事務局七十四名、監査委員会三名、農業委員会と監査委員会につきま

ては、現員は農業委員会が六名、監査が二名ということに
決議を得ておりますが、これはそれだけの任命権者う意
思を尊重いたしまして、現在う条例定数を一応保留
していただくまいというところでございますので、こゝまま改正
しないで総数うたい方にかえたものでございます。

消防も同様でございます。そういう関係から、この条例の
改正の施行は公布の日からでなくて、予算書う効力が発
生されます四十三年の四月一日にさか上って適用することと
お願いいたしたいと思つてわけでございます。

続きまして、議案第四十九号、五十号について御説明申し
上げます。

これは常勤三役と教育長う給与う引き上げう条例改正
でございます。御承知うように一般職もベースアップが

国家公務員に準じまして、ほとんど毎年うように給与う引

き上げが実施されて参りまして現時点に参りますと一般職の給与と特に教育長・収入役等の給与が非常に接近して参りまして十月一日の定期昇給を見ますと、諸手当を合わせますと現在が報酬額では一般職の方が上回るわるといふような形が出て参っております。そういう関係からこの際十月一日からぜひ給与額に改定いたしたいと考えましてこの二つの条制を上程する次第でございます。引き上げの額が関係でございますが、これは一応一般職の給与が実態とそれから国家公務員の現在あります給与の額がどのように動いたか、そういう関係を勘案いたしまして去る十八日に特に三役に関しましては報酬審議会の答申をお願いいたわけて諮問の結果答申がこのような形で参りまいたので、議案第五号のようにお願いいたしますと同時に教育長もこれにならひまして

をお願いしたいわけでございます。特に市長の分につきま
まとしては従前市長個人の辞退と関係がございまして
非常に変則的な給与になつておりまいなうをやはり正
常な姿に戻したいというところでこのように改めようとする
ものでございます。以上でございます。

・土木課長(新井重助君)議案第五十一号について御説明申
上げます。

六五三号、西原、富士見線、これは館山航空隊の正門前に
あります。道路でございますが、これは従来市道でもな
ければ何でもありません。普通の一般に使われております。農道
のようなかっこうで終戦以来参つておりましてたゞで、これを
認定しようというものでございます。

国面がございますか、現在都市計画でやつております。道路
が館山航空隊の今回認定しようとする道路に接

繞して上るようになっておりますので、今回これを認定願ひ
—たわけでございます。

次う六五四号布良左敷線でございますが、こゝは有料道路
のゲートと大神宮から入って参ります。文差点から相う改に
下りるうでございますが、こゝから参りまゝ、富崎小学校
の前を通りまゝ、布良、郵便局の前から富崎、港
に入らず、が、県道になっておりますが、その起点から布
良神社から改修—道路に接続する道路が従来県道
でございます。—県道、改良に伴い、不要な道路は、
県道、資格がなくなるわけでございますが、その当時、県
から市に何かつて市道にしてもらいたいというふうな交渉
がございましたので、そのままになっておりまゝ、たが、補修
については、他、市道と同様に取り扱って参りまゝ、たが、そ
ういふことでは、完全な維持補修がでないということでは

今回これを市道にいたしまして維持管理を十分して
いきたい。かように考えまして軌空隊前より道路、二百八
十九メートル 幅十二メートル、布良う方は五百九十三メー
トル 幅五メートル、これを市道に認定しようというもので
ございます。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時三十分 休憩

午前十一時三十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き議事を開きます。
財政課長(長谷川広治君)五十二号議案より一般会計補正予算
第二号について説明申し上げます。

第一条にお示しのとおり今回千三百七十六万八千円を追加いたし

まゝして歳入歳出十億三千八百七十八万五千円といふ予定
でございます。なお歳入の純追加額千四百七十一万、歳入の
更正額九十四万二千円、歳出におきまして純追加額千八百二十
万七千円、更正額が四百四十万九千円、差引き千三百七十
六万八千円追加額に相なっております。

財源ごとの考えますと、特定財源が今回四三%を占めます
五百九十一万八千円、一般財源が七百八十五万円、五七%を占め
ております。

各款ごとの内容につきましては第一表の補正予算の二ページ
から六ページ事項別明細書によつて御説明申し上げます。
今回新たに十三款、次に十四款の娯楽施設利用税
交付金、これはゴルフ場への入場税に對して六%の還元
がなされますが、その受け入れ課目でございます。

十五款に臨時地方財政交付金、これは一年限りという

こととございまいたが、本半年度も財政補てんり音の意味で
くゆるということとでこう受け入小課目を新たに設けたいとい
うこととでございします。

二条でございしますが、今度消防車り購入を百九十一万円で
債務負担行為について行ないたいということとで予算補正
をいたしております。

一五ページう歳末から御説明申し上げます。

議会におきまして、二十九万二千円を追加いたしております。

これは事務局職員の中へ産休りものがあるまいて休んで
おりますので臨時用人り賃金四万二千円、交際費とて
二十五万を追加いたしております。

次に一般管理費り旅費とて三十万、普通旅費とて追加
いたしております。当初予算七十七万計上いたまいたが
本半年度はいろいろ事業が重なりまして多少例年より

多かつた。それからもう一つは新採用者の研修とか、宿泊施設
がなくなつたために若干増額を見て年間三十万の追加が
必要ではないかというふうに考えますので、三十万追加をいた
してあります。

それから十八節の備品費として十三万追加をいたしまして
が、これは机六個、湯わかし一個を入れます。費用でござい
ます。それ以外悪くなつたために取りかえをする費用でござ
います。それから次に五目の財産管理費として五万七千
円、これはエスターという機械を配置してある室が非常に
簡単な構造でございまして、機械が上からもそれ
ぞれ温度調節等をいたさなければならぬということに
改修をいたしたい。そういうふうに考えて計上いたしております。
秘書課長（小倉隆男君）一五ページ総務管理費、一般管理費
中十一節の食料費二万五千円追加をお願いいたします。

だが、これは十一月三日に行なわれまする館山市表彰条
例におきます表彰者、祝賀、食料費として二万五
千円計上いたしまして。

次に十九節、負担金補助及び交付金でございしますが
総額五十二万円、そのうち五十万円は来たる十月十四日、十五日
におきまして当館山市におきまして国際ロータリーの三五七
地区の年次大会が当市におきまして開催すること、決議
いたしまして、当日には全国から千八百名、ロータリーが参
集いただきます。諸議案について決議をするわけでござ
います。これは全国ロータリーが館山市にお集まり、
いただくというところで、今までかつてない大会でございまして、
それにつきまして地元館山市といたしまして、大いに歓迎
すべきということで五十万計上した次第でございします。
なお五十万計上いたしましたが、ロータリーといたしまして、

大会委員長「ガバナー等の話によりますと、ロタリーという精神に基きまして大会開催市に対して相当の社会事業によつて見合う、これ以上の額を当日特別募金をいたしまして、市に還元するというお話も聞いておりますので、十金五金万も意義あるものと考えております。

次に全国漁業基地所在都市協議会負担金でございますが、二万月、これは漁港の所在市町村に対する補助金でございますが、これは特別交付税で見られておるわけでございますが、これを特別交付税ということになりますと、その時点・時点におきまして、非常な問題が、かもし出されるということで、全国市長会内におきまして、全国漁港を保持する都市は、こういうような協議会を作りまして、政府に積極的に運動を持ち込み、普通交付税の中に織り込んでもらいたいということ、市長会の中にこういう会が、

できまして、その負担金二万円を、願っていました。

これを報償費の方から銀盃代が多少余りますので、
四万五千円更正させていただきました。

企画課長(谷貝茂生君)「大ページでございます。

六目の企画費の十九節の負担金補助及び交付金につきまして御説明申し上げます。安房郡市広域行政連絡協議会負担金十一万九千円。最近の交通通信網の発達により、住民の生活圏・経済圏の拡大から本質的に処理していかねばならないということで、県におきまして安房郡市におきましては、長狭地区・朝夷地区・鋸南地区・三つう地区に協議会を作りまして、広域的なことに、ついて協議でもって話し合いを進めながら、仕事を、していくというところで、今まで進めて参ったのであります。が、三つう地区に分けてまいりますと、一つは協議会に入って

おりますと他、協議会に関係する仕事もあるということ
今回安房郡市一本化した連絡協議会に組織がえを
て広域的な仕事を進めていくということで、今回こ
に協議会を作るということで、この会員としては、安房
郡市、市町村長、議会、議長、こを一本の会員と
して大同、団結した形で協議しながら仕事を計画的に
進めていくということ、館山市も今回加入しようとい
うのでございます。

この協議会の財源といえまして、県の補助がござい
ます。年度途中でございすが、本年度は三月まで、
経費として大体四十万位かかるということで、この負担金に
つきまして、均等割、基準財政収入額割ということから
館山市が十一万九千円負担してくれ、ということ、
ので今回お願いしようというものでございます。

調査課長(高木松三君)一六ページ、徴税費について御説明申し上げます。税務総務費におきまして百四十七万七千円、追加でございます。これは四十五年評価がえう年までに新しい評価基準によりて家屋四万一千戸を評価がえする経費でございます。その内訳でございますが、賃金で七十三万、これは臨時職員、賃金でございます。それから土需用費、七万四千円、これは評価調査を作るのに七万七千円、消耗品三万三千円、これは臨時職員の作業衣オートバイに乗って調査にいきます関係上ヘルメットを買ったものでございます。

十八節、備品購入費六十三万五千円、これはオートバイ二台と電子卓上計算器を購入していただきたいと思ひまして三十六万五千円を計上いたしまして。

市民課長(羽山房雄君)続きまして一六ページ、三節委託料三万八千

円をお願いいたしまして。これは従来市民課の計算係が操
作しております五台の計算器オリベッティの計算器が
ございますが、これが購入以来三カ年になりましてぼつぼつ
オーバーホール等の時期に入りますがこの効率的な運
用を期するためにオリベッティの会社と契約を結ぶまして
年間一台一万五千円を予定で契約を結ぶてございます
が今年は十月一日から半年分一台七千五百円、五台分
三万七千五百円をお願いするわけでございます。

戸籍住民登録費におきまして二十四万五千円をお願いいた
します。

七節の賃金におきまして臨時用人の雇い上げ、産休
職員の補充のために六万六千円、消耗品、印刷製本費
におきまして二万七千円、消耗品はゴム印用紙、代等でご
ざいます。印刷は今回決定しまして住民基本台帳法に

よってカード類、或いは選挙人名簿用紙、登録用紙、
 そういうものを印刷したい。というところでございます。

十八節の備品購入費におきまして十五万二千円、ただいま市民課で使用しております。複写器が三年七カ月経過してございまして購入以来連日フルに運転しておりますが、これも寿命が参っておりますので、一台新たに購入していきたい。以上でございます。

。發管書記長（大嶋重義君）四項の選挙費について御説明申し上げます。

今回純追加額は百三十五万更正額が四万七千円、差し引き追加百三十万三千円をお願いするものでございます。

一目の選挙管理委員会費におきまして、二十四万の追加でございますが、これは選挙人名簿が今まで簿冊式になっておりましたのを永久選挙人名簿になりまして一人一枚のカード

式にすることになっております。この作業につきましては今年
の一月二月の時期を見まゝに行なう予定で補正予算
も御決議をいただいたわけでありましたが、当時衆議院議
員選挙が解散によりまゝで執行ということになりまして
作業ができませんなかつたのでございます。それを今回行ない
たいと思うわけでございます。

それにさらに十一月から住民基本台帳法が施行になるわ
けでございます。それに伴ひまして住民票に記載する
選挙人カードを選挙人名簿の写りを市民課の方に
置いて事務の合理化をはかつていきたい。こういうことで
名簿の写りを作るということでここに賃金と市民課に
備え付けるキャビネット二個の購入をお願いしたわけで
ございます。

二目、選挙啓発に発費でございますが、これは当初補助

金が前年とちやうと云うことで三十七万八千円でござい
ま—たが、その後内示が参りまして三十三万一千円と低
くなったので、四万七千円を更正しようというものでござ
います。

三日の県知事及び県会議員の選挙費でございま
すが、こゝにつきま—ては全額県の委託金によりま—て
まかなつて参つたのであります。こゝはおもに開票
立会人が少なく、済んだということ、開票事務が早く
済んだという関係から余剰が生じま—たので、こゝ更正
財源を備品購入にいた—たいということ、七万七千円も追
加をお願いしたわけでござ—います。が、内訳は投票箱三個
携帯用の計算器を三万円、一個、その他選挙用の
器具、備品を購入に—たいと思うのでござ—います。
次に四日の市会議員の選挙費でござ—います。が、二十四万

の更正でございますが、これは大体支払いが済んだわけでございますが、開票時間が当初より早く済んだということ。県の選挙と並行して行なわれまいと関係で経費の節減ができたというふうなことで、ここに余りを生じまいというので、二十四万を先ほど説明しました二日間の備品購入と賃金に充てようとするものでございます。

次に五日の参議院の補欠選挙の追加でございますが、百三十五万でございます。

これは今回知事と県議選の費用の役へ割程度を見込むようにという内示がございまいたので、それに相当する額を計上いたしまして、それぞれ執行に要する費目に割り当てたのでございますが、おもむきものでは三節の職員手当、超勤手当でございますが、今回は日曜でございますので、この額がかさんだわけでございます。内訳は投票関係に

おきまして三十八万四千円開票関係におきまして六万円の準備事務におきまして九万円という内訳でございます。さらに十一節の需用費でございますがおもなものは大体ポスター掲示場がおもなもので二十万、その他もろもろにつきまゝでは、この選挙を執行するに必要な事務費をそれぞれ分けて計上いたしまして、よろしく願っています。

庶務課長（山本実君）一九ページ五目統計調査費について説明申上げます。今回追加も願います。額は大万七千円でございます。物価統計調査費について説明申上げます。本年第一回の全国一斉物価調査が行なわれるわけでございますが、その調査時点は十月末から十一月上旬にわたるわけでございます。本市におきましては三百世帯につきまして調査員十名を任命いたしまして調査するわけでございます。いろいろ費用がおもな

もうございます。以上でございます。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時五十七分 休憩

午後 二時 五分 再開

議長(吉田勇治郎君)午後う出席議員数二十六名。

第三款民生費より行ないます。

福祉事務所長(池田亮山君)第三款民生費について御説明申し上げます。

一項目社会福祉費十八万六千円の追加でございます。

一項目社会福祉総務費で八節の報償費に一万円、これは今回厚生省で行ないます国民生活実態調査及び所得再配分調査が十月一日から行なわれるわけでござい

す。対象地区は山本、第三地区でございます。

そこが選ばれて、各世帯別に調査するわけでございます。
二に要する調査員の手当として国から一万円参りま
して、そのまま一万円交付するわけでございます。

十九節負担金補助及び交付金二万八千円、追加、安房
保護司会助成金が当初予算では人口一人当り一円という
積算で計上してありましたが、今回一円五十銭に値上げ
するということになり、五十銭の追加でございます。

二目社会福祉施設費でございます。十九節負担金補助
及び交付金十四万八千円、先ほどの条例で御説明申し上げま
したように、市の社会福祉協議会補助金として法人化さ
した場合に国、県から年間二十二万二千円、割合で交付
になってくるわけでございます。二、社会福祉協議会が法人
になりますのが四月一日からということを目下申請中。

でありますので、こゝが八カ月二十三万二千円、十二ヵ月八、十四万八千円、国からきます補助金、そのままを計上したわけでございします。

二項、児童福祉費でございします。九十二万一千円、追加でございします。一目の児童福祉総務費でございします。

九節の旅費で二万五千円、追加。こゝは費用弁償五千円、普通旅費二万円、費用弁償は家庭相談員、旅費でございします。

十、五節の工事情費費でございします。四十三万五千円、追加でございします。こゝは青年館建設費、八幡青年館が当初に予定した規模よりも大きくなりました関係で四十三万五千円、追加を必要としたわけでございします。こゝ財源といひまゝでは金額地元寄付金でございします。三目の児童福祉施設費でございします。

七節、賃金二十万、保育園の産休臨時職員、賃金が十五万八千円、保育園事務職員、賃金四万二千円不足する見込みでございます。計上いたしたわけでございます。これにつきましては全額国庫負担でございます。

十一節、需用費消耗品費八万、修繕料二万、いすも保育園の園用消耗品不足分、修繕料二万は、四園舎その他が相当いたんでおります。で、小破修理をいたしたい。

十二節、役務費でございます。通信運搬費で五万八千円、追加、これは主として保育園の電話料が不足する予定でございます。追加するわけでございます。十五節、工事請負費九十万、船形保育園の東側、いれ工事する予定でございます。

十九節負担金補助及び交付金で三千万の追加でございますが、社会福祉協議会負担金二千万とありますが、これは県社会福祉協議会と間違いでございます。

これは各保育園に対する県負担金が五百円ずつ増加になりまして、四園分二千万、園長会議負担金一千万でございますが、安房郡市、保育園長会議、際に会費として負担金を徴収するわけでございますが、一回五百円程度、二回分計よりわけでございます。なお二〇ページ十九節負担金補助及び交付金ところで、市社会福祉協議社となっておりますが、協議会と間違いでございます。

二十六ページ、諸費、十九万七千万、追加計上でございます。二十三節償還金、利子及び割引料、これは処置費と返還金でございます。

これは四十年度の保育処置費、国庫負担金四名分が調

査う結果誤まりであるうが發見せられたので、これに対する分り国庫負担金に対する返還分でございます。

次う四万四千円はこれに伴う保育所処置費負担金返還と保育料の返還金でございます。以上でございます。

衛生施設課長(吉田耕一君)四款衛生費のうち三目一尿処理費について御説明申し上げます。

と節の賃金におきまして三十五万円をお願いしようというものでございます。これは一尿処理場に勤務しております職員一名が焼却場の完成に伴いまして、そちらに職員一名異動させた。それに伴います作業員一名を雇い上げたい。ということ。それから現在までう作業員の労務が現在の人員では相当過剰だということから、もう一名の臨時作業員をお願いしたいと考えまして、これに要します賃金の不足額を今回も願ひしようというものでございます。

以上でございます。

・農業委員会事務局長(畠山市治郎君)六款一目農業委員会
費でございますが、今回十四万二千円旅費として追加計上いた
わけてございますが、これは農業委員二十名の先遣地の視
察を計上したわけでございます。その旅費として計上
した次第でございます。

・農林水産課長(伊藤孝太郎君)続きまして農業振興費、そ
の他につきまして御説明申し上げます。

通信運搬費が年度末まで不足見込みでございます。
で、今回三万円追加お願いいたしました。

次の農業振興費におきまして、農村青少年研修会等
の補助金として三万円、これは過般全国の農村青年の
後継者対策の一つとして九十九里町におきまして全国の
研修会が行なわれたわけでございます。

本市におきましても、その意味におきまいて十名の研修員を派遣いたしまして、その費用として平均一人三千円の割合でもって十人分三万円を計上いたしております。

次に農地費におきまして、百万円の追加でございますが、これは先ほど市長からも申上げました通り、今回平久里の昭和橋の上流のニッソーメントル上流に溯止め工事を県費でもって決定いたしたのでございます。それに対して

受益者負担として安房中央土地改良区が事業費の五〇％、地元市として一〇％の負担をしてほしいという果てな要請でございますので、この仕事に重要性からいたしまして一〇％の負担を行なうことを約束いたしたものでございます。その結果、本年度の事業費が一千万円、予定でございます。総工費が約五千万の予定でございます。

それから次の大目、これは御承知の農地買収に対する補償
制度の一つとして、昨年度末をもって行なつたわけでござい
ますが、残務整理が相当残つておるわけでございます。
その意味におきまして、今回県の方から事務費補助として
若干金が入りまゝで、その範囲内におきまして、残務
整理費として、それより費目に分けたくてございます。
次に水産業費でございしますが、次に水産業費でございま
すが、今回新たに新規事業として計上いたすもうが、
えぞあわびの補助金三万九千円、今回この仕事に対して
県の認定がくださるゝ、約七万一千円、事業費が認
定されたわけでございます。それに対して、県並ひに市を
含めて三万九千円、補助金を出すことに相なつたわけでござ
います。これは、富崎地区でございます。

次に、漁業教室の奨励十三万円、これは、漁業者の若い層

を対象として漁業教室を開設して後継者対策の一環として、研修会を行なうということに相なりまいた。

これも県におきまして十六万円が事業費が認定されまいたので、今回県並びに市を含めて十二万円が補助金をあります。これは船形地区を対象にしております。

次に漁協合併の補助金として二十万円を計上いたしました。これは漁協の合併を推進して参りまいたが、四十一年度におきまして御承知のとおり館山と船形が一段階といったまいして合併が実現いたしたのでございますが、残り十三組合につきましては本年度引き続いて合併促進をはかつて参りたいということと、この協議会に対して本年度二十万円補助金を交付したいというものでございます。

次う漁港管理費、並びに漁港建設費、それぞれ減でございます。

ます。これは事業の変更減と入れ残りのものでございまして、
それ以外八万円、四十二万六千円、減額補正をいたしております。
います。以上でございいます。

・商工観光課長（山田俊康君）七款商工費について申し上げます。
商工総務費で百三十七万、観光費で七万円、減商工
総務費で百三十七万、損害補償費でお願いいたします。わけで
ございいます。これは夏季の監視員の事故によります。公務
災害補償というところでお願いいたします。

七月の臨時市議会の際の全員協議会で申し上げたとき
は公務に準ずる扱いをいたすという報告を申し上げてあ
つたのでございしますが、その後地方公務員法、労働基準法
或いは民法、自動車損害賠償保険法等の関連、県の
人事委員会或いは労働基準監督所等々と慎重に打ち
合わせをいたしました結果、公務に準ずる扱いではなくて公務

として扱うべきだという結論に達し、まゝたゞで公務と認定して、こゝから補償を行なうようにしたい。まゝた。

問題になり、まゝたゞ点を二、三申し上げますと、公務上の災害であるとして認定した場合、運転者が重大な過失があつた場合にそれによつて過失相殺の関係はどうかということであり、すなはち、過失相殺者が重大な過失を要するに無免許運転という重大な過失があつたとはいえ、公務上死した場合、過失相殺はできない。負傷の場合は過失相殺はできるけれども、死した場合、過失相殺はない。それからもう一つ、雇用者である。労働者である臨時用人である大学生の親たち、或いは、負傷している人たちとの間に示談が成立した場合、労働基準法で定める額以下で示談が成立した場合、その示談は有効かどうかというふうな問題に、ついても、いろいろ協議し、まゝたゞけれども、こゝについては、

判例がありまして「示談額が法に規定する補償額に満たないときは、その差額を支給すべきものと解する。」という行政実例が出ておりまして、これによつて市が当然補償しなくてはならない。市として最善の方途ということでは、六百三十七万を計上し、次第です。

具体的に算出し、基礎を申し上げますと、遺族補償費は百万円、法律に定められておりますのが、千日分を遺族補償として支給しなくてはならない。一日当り千円で日雇ひ上げておりまして、海岸監視人望代憲君、これについては千日分、百万円、障害費は十七万、基礎でありますけれども、けがをした方でございますが、小林、左顔面にまぶたがしまらぬ、神経障害を残すというような医師の診断もありまして、これが百四十日分、障害打ち切り補償、小林の場合にはキャンプ場の管理というよ

うな夜勤勤務を命じてありましたために特別歩
合給がついておりまして千二百円で計算されておしま
して千二百円より百四十日分十六万八千円、これに二千円
加算いたしまして十七万それから休業補償十三万、
これは医師の診断書によりまして六カ月の休養を
要するということなので千二百円より百八十日分休業
補償にあつては六割を雇用者は支払えばいいということ
で六割は十二万九千六百円、これも四百円加算いたし
まして十三万、葬祭料にあつては六十日分ということが、
規定されております。望陀の方ですから千円で計算
いたしますと六万ということになりますけれども、現実に望
陀の場合十九日に事故が発生して二十四日に死す。二十
六日葬儀九月九日に接骨葬が再度行なわれておしま
して、そういう関係から特に一万円増額してこれによつて

親或いは本人たちと示談も成立をはかるといふ見通しがつきまゐるので、このように願ひする次第でございます。

・建築課長（池田春雄君）土木費中の住宅建設費について申し上げます。一般職の昇給によつて五千円をほかの方から回わし、土地購入費、国有地ですが、これは払い下げ單価が上つておりますので五十万円を工事費の方から回わさない、このように考えております。

・消防本部次長（石渡東君）第九款について御説明申し上げます。

五節災害補償費でございますが、これは先刻から御報告申し上げました事故によるお医者さんに払う医者料というふうに解釈願ひたいと思ひます。

十二節役務費二万円。市役所と消防署との間には、直営の電話がございますので、一々市役所から或いは

は消防から月に何回となくやり取りしておりますので
 こゝを何とか内線電話的に市役所の交換台から消防
 の方へ交換台に一本引いていただきたいということを申し
 上げまいとところ、技術的に可能であるということでも
 費として二万円をお願いする次第でございます。

次に三三節、こゝは先刻から御報告申し上げまいと補
 償、額でございます。

次、減額十二万円でございますが、こゝは非常備関係
 の被服購入におきまして業者の結果、この程度は減
 額できるという見通しでございます。一応減額さ
 せていただきます。

十九節六十二万七千円のうち、三十七万二千円は共済基金へ
 の納付金になっておりますが、こゝは消防団員の公務災害
 補償基金というのが設けられておりまして、こゝに掛金を

掛けとなるのでございますが、四十一年度からは若干増額になるという通知に接しまして、これは法令の改正による増額になったので、如何ともいえないので、これだけ増額したいと思ひます。

次いで市の消防支部へ二十二万五千円の増、御承知かと思ひますが、本年四月から八月十六日まで朝或いは晩に団員の日夜訓練を続けまして八月十六日に館山市全体で消防操作法大会という今までかつてない行事を行なつたのであります。これは要するに経費が九万四千二百十円かかつてあります。これは現在市からいただいております金から一応たてかえしてあります。が、本年度には事業でございまして、これだけ余分に支出したことになっております。なお、またこの大賞会におきまして優勝したチームから千葉県の操法大会に出場するということが決定になっておきまして、県

大会に出場するのだということになりますと、これはただで
いけません。これに要する経費が一昨年度果に出場されたと
きの経費を除きまして約十六万二千円ばかりかかるという
ことで、これも合わせまして二十五万五千円を追加をお願いす
るわけでございます。以上でございます。

教育委員会庶務課長（千場伊左門君）第十款教育費について
御説明申し上げます。

今回、補正額は二百二十九万一千円でございますが、まず教
育総務費で二十三万四千円。これは備品購入費でございます。
一、薬剤師が環境衛生、検査等を各学校で実施して
おるものでございますが、それに要する検査器具がないために、他
地区から借りて実施しておる状態でございます。温度計
等八種類の器具を購入したいということでございます。
国から三分の一、県から四分の一、五万八千円、補助がござい

次は小学校費の關係でございまして、十二万三千円の追加でござ
います。が、このうち職員手当、二万円、これは今まで小学校
の宿日直については、学校の教員がこれに当たっておったので
ございまして、今回日直については、月一回、宿日直については、
週一回を基準とするということ、それを越える部分に
ついては、果て補助金を充て、市町村の責任において、こ
れを雇い上げて宿日直に充てるということ、でございまして、日
直手当、二万円の關係は、そのうち用務員が日直に当る
分、四十七人分をここに盛ったわけでございまして、

大体全体の關係を見ますと、宿直が延六百三十九人、日直
百九十三人、合計で延八百三十二人となるわけでございまして、
その金額は、三十四万九千四百四十円という額になります。
七節の賃金、二十七万八千円、これは用務員以外、宿日
直の要員の賃金として、六百六十二人分を計上いた次第

でございます。

次の九節旅費三万五千円、これは言語障害児の教育地域指定の補助金として三万円、補助のいたわけてでございますが、その倍額六万円を計上しなければならぬのでございますが、そういう言語治療を担当教師の研修旅費として三万五千円、講師謝礼二万五千円は既定予算を充てるわけでございます。

十五節工事請負費五万円、これは館野小学校の焼却炉、現在は山口穴を振って燃えておりますが、やはり危険防止上、焼却炉を作らなければならぬということで、五万円をお願いいた次第でございます。

次に十八節備品費、学校器具費、給食用の備品を更正して次の備品購入費、教材費の方で更正するわけでございます。

次、理科教育費、設備費の三十二万、減は理科振興法に基
く理科教育の設備関係の補助金の減でございます。

次に畑小学校の教材費の購入三万円。これは僻地校の
教材整備補助金として九万円、参ったのでございますが、
総額十八万のうち規定予算の十五万円を回わって
三万円をここに追加するわけでございます。

交通安全指導用自転車、三万円をお願いたうでござ
います。これは交通安全指導関係の標識を当初予算
でお願いたうして可決したものでございしますが、
標識を使う場合実際にやってみるということでは自転車
の購入をお願いたう次第でございます。

三項の中学校費七十一万三千元、追加でございますが、
職員手当が一萬三千元、これはさっき申し上げました
用務員の日宿直手当の延二十九人分でございます。

賃金、四万円、宿日直要員、九十人分でございます。

十四節、使用料及び賃借料、十三万二千円、これは西岬中学校地賃借料、四万二千円、この関係は、四十三年一月一日から一年の分でございますが、年度としますと、四十二年度と四十三年度にまたがるわけでございますが、納期、九日が四十二年一月となっておりますので、そういう関係上、四十二年度にお願いたく次第でございます。それから、二中の分は、契約更新に伴う不足分でございます。

十五節、工事請負費でございますが、十万円、西岬中学校の給水タンクが底が腐食しまして水が漏り出て、新しくかえなければならぬということ、十万円をお願いいたします。

備品購入費八万六千円、更正、これは学校器具費関係、十八万四千円を教材費の方に持ていきまして、房南中学校の印刷器、購入のために九万八千円を願ひ、二大第でございます。

次、十九節、負担金補助及び交付金でございますが、これは中学生、果体補助金として、当初予算が二十万、願ひ、いたゞでございますが、実際には、選手が今度、いたゞは、二百四十一人、汽車及びバス代と百九十一名の宿泊代、そう、いうものを合、合わせますと、五十七万余円になりますので、あと三十万円の追加をお願いする次第でございます。

十八節、備品購入費、二十一万四千円の増、管理費、備品費から十八万四千円を持ってきて、理科教育、設備費として、理科教育振興法に基く補助金、増額に伴うものでございます。

産業教育設備費関係の十五万円、減は産業教育振興法、補助金、う、減に基くものでございます。

特殊学級の四万円、これは二中関係の国庫補助関係が十三万円から十五万円に決定したものでございますが、その差が二万円あるんですが、その倍額の四万円を計上した次第でございます。

次の四項、高等学校費で十一万四千円、増でございますが、これは館山高校の校地購入費として四十一年度で七十三名分、四十一万六千円をお願いしまして、その整理に当たったのでございますが、四十一年度中に完了したものが、四十四人分、二十五万八千円を支払うまいと残り二十九人分、今回、そのうち約二十人分が整理ができたわけでございまして、この分十二万四千円をここにお願いいたす次第でございます。

五項幼稚園費でございますが、八万四千円、増は北条幼稚園の産休補助職員が二名ありまして、二名分、六十五日分、賃金でございます。よろしくお願いいたします。

・社会教育課長(原間利一君)社会教育費並びに七項、保健体育費につづまして御説明申し上げます。

社会教育費の第一目社会教育総務費でございますが、十一節需用費におきまして二万円お願いするものでございます。これは消耗品ということで社会教育委員のバッチ購入五百円二十人分ということで一万円、年度内に市指定の文化財三件、八幡神社、所々崎神社、手力雄神社、本殿を市文化財に指定し、また、その表示板並びに果の方から安房神社、洞窟も市指定になっております。昭々サンゴ礁を果の文化財として指定する。合わせまして五件ございます。いますので、その表示板一万円をお願いするものでござい

ます。

十二節役務費でございますが、通信運搬費で不足を見込んで一万円計上いたしまして、十九節でございますが、六十六万円お願ひするものでございます。二ににつきましては、当初、市文化財審議委員会をもって構成しておりまして、文化財保護協会が本年に入りまして文化財審議委員はもちろんでございますが、さらに県指定、国指定、文化財を持っていらっしゃる方々、それに学識経験者を加えて新しく文化財保護協会が発足しまして、従来と違って、年次計画予算を事業執行に伴う補助申請があったらでございますが、その関係から、本年後半分ということ、二で二万円お願ひするわけでございます。

それから日本刀鍛錬所建設補助金でございますが、これは安布里におられます、石井昭房氏が日本刀鍛錬

の技術を持ちておられるということで本人自身が果文化財に指定を受けず今日に至っております。

つきましては、この技術を後世に伝承して参りたいということから鍛錬所の建築で百二十八万円、なお、でき上った日本刀について幾つかを展示してその制作工程を展示して参りたいということ、展示室百四十万円、材料等、倉庫といたうことで二十二万二千元、計二百九十三万二千元で仕事を進めて参ります。これでは、かかるべき補助金をお願いたいということで、館山市教育委員会並びに県教育委員会に補助金申請があつたのでございますが、慎重審議いたし、また結果、展示室、倉庫につきましても補助の対象から除くということ、本市といたしましては、文化財保護条例の十三条に従ひ、鍛錬工場百二十八万円、二分の一、六十四万円を補助金として差上げてはということ、計上

してあります。果う方も先般内示がございまして、六十四万円の内示があったわけでございます。

次に図書館費でございますが、現在豊房、西畑、神戸、富崎、九重に限りましては、図書館から地理的に遠いということから、果図書館の「ムカリ号」を委嘱して住民の読書に利用してあるわけでございますが、この委託料が従来三千円であったものが、果の方から値上げというふうなことから、五回分五千円をお願いするわけでございます。

次に市民センターの建設費でございますが、当初十九節負担金補助及び交付金ということで、開発公社土地購入利子補給ということ、百五十八万円計上したわけでございますが、これを十三節の委託料五十万円と十七節の公有財産購入費、百八万円ということで更正願うものでございます。次に保健体育費でございますが、九節の旅費です。

ホーッ少年団指導者、費用弁償一万円。なお、需用費、
同トク少年団指導者の会議、まかない料。こゝにつきまゝでは
本年に入りまして、七団の増加を見まゝの結果、十六スポー
ッ少年団が結成を見なわけでございます。そういうことから
指導者相互の連絡、協議の必要と果う方から、そういう
少年団の指導者、研修を行ないたいということ、その裏
づけとして旅費一万円、まかない料三千円をお願いするわ
けでございます。

十九節の負担金、補助及び交付金ということ、本市体育
協会へ、補助金ということ、三十一万五千円をお願いする
わけでございます。

こゝにつきまゝでは、年度当初四十万五千円、補助を
願ひておるわけでございますが、その中で体育諸行事、技
術講習会等を持つてきておりますが、たまたま、果氏体

育大会参加に伴うユニホームの整備というふうなことで
 昨年に引き続き出場される方は別として本年交代さ
 れる方々分として上着千七百円相当のものを百二十名分
 さらに参加選手全員にトレパンというもので七百三十円、二百
 二十人分というので三十六万五千五百三十円を必要とするわけ
 でございます。その間、県体育協会より本市体育協会宛
 ユニホームを整備するならば、補助金を出しますというので
 五万三千円の内示をいただきました。差し引き三十一万
 四千五百二十円となるわけでございますが、従って三十一万五千
 円、補助金を計上するものでございます。よろしくも願
 います。

・財政課長(長谷川弘治君)ニセページ債務負担行為の補正を
 計上いたしておりますが、消防自動車、購入費として
 百九十一万円、四十三年度において支出いたしたい。

このような関係で計上いたしております。購入の地区は箱形地区でござえますが本年年度の財政事情から考えまして、明年度に回わしますと起債及び補助の対象等も予定せられますので四十三年度に支払いたい。かように考えて計上いたいたしております。

以上で歳入の説明を終りまして、総額千三百七十六万八千円ということに相なります。

続きまして九ページの歳入から御説明申し上げます。

今回市民税におきまして五百五十一万六千円を計上いたいたわけでございますが、現在より市民税の調定金額から考えますと当初予算額に對しまして約一五%程度の伸びが予想されるわけでございますが、地方税法の改正によりまして現在若干の減額が行なわれておりますので、今回不足財源の補充として五百五十一万六千円を計上して、ほかは、自後追加財源と

して保留しておく考えてございます。

五款使用料及び手数料として十五万計上しておりますが、これは付記のとおりのもので大体二ヶ程度増収がでけると見込んでおります。

大款、国庫支出金及び七款、果実支出金、合わせまして四百八十九万六千円を計上いたしておりますが、これは年度中途におきまして、使用料の確定をいたしまして、及び歳出で御説明を申し上げました執行予定額に対して、それぞれ対応する金額を追加或いは減額しておりますので、付記により御了承をいただきたいと思います。このうち児童福祉費の負担金として百四十一万六千円が過年度分として計上されておりますが、これは精算後になりますので、四十一年度分が四十一年度に収入されるわけでございます。

財産収入として五万円計上しておりますが、これは前年度

神戸地区の消防車を購入いたして今まで使用しております。たもつを備品破棄をいたしたもつでございますが、その売り払い代金の五十万円でございます。

寄付金につきましては歳出に対応する金額でございます。つて付記により御了承いただきたいと思います。

雑収入におきまして七十一万三千円を計上いたしまして、うち五十万円が消防車の事故による自賠法、保険金収入でございます。

歳出におきまして御説明を申し上げました保育処置費の国へ返還に対する金額は二十一万三千円計上いたしております。

十四款、十五款は新しく設けたものでございます。

十四款、娯楽施設利用税の交付金はゴルフ場の入場税の六%が所在市町村にくるといふ法律になっております。

大体年間百二十万程度、^が推定されるわけでございますが、本年度、年度当初から始まつておりませんで、今、見積りで大体百万程度というふうに推定いたしまして、計上いたしたわけでございます。

それから百十三万四千円を臨時地方財政交付金として計上いたしまして、これは午前中御説明申し上げましたとおり、地方財政の財源補てん、意味で本年度臨時的なものとして、百十三万四千円の内示がございまして、同額を今回計上いたしたものでございます。

以上が歳入の合計でございます。歳入と同く千三百七十六万八千円というように相なりまして、歳入歩出差引き、残金なしということに相なるわけでございます。

以上で一般会計の御説明を終らうといたします。

・議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後三時 天分

休憩

午後三時四十分

再開

・議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

・保健衛生課長(綱島富治君)国民健康保険会計の補正予算について御説明申し上げます。

歳入歳出それぞれ七百二十九万六千円を追加いたしまして歳入歳出それぞれ二億二千五百九十五万三千円といたうたいというものでございます。

事業勘定におきまして賦課徴収費内訳といたしまして印刷製本費三万、備品費五万、これは賦課簿の印刷とそれを格納するキャビネット

保険給付費におきまして五十五万六千円、これは直診勘定

へ、繰り出しとなっておりますが、直診勘定の方におきまして国民健康保険に関係する部分の歳入を計上しておりますので、その分でございします。

保健施設費において備品費一萬一千円、保健婦の制服が三人分全額、果費補助で支給されることになりましたので、一萬一千円計上いたしました。

直診勘定におきまして、一般管理費におきまして三十萬四千円、交際費三萬円、これは直診におきまして、ときどき千葉大学の先生にお願いいたしまして、手術をいたすこともございします。交際費が若干不足する見込みでございしますので三萬円計上いたしました。

需用費うち二十三萬三千円は診療所の屋根が雨漏りをいたしまして、その修繕料、それから焼却炉がほとんど使用に耐えない状態でございますので、これが三萬三千円

使用料及び賃借料のうちで一万一千円。これは主として現在直
診の先生が市内の方に住居を持っており、関係で
夜間往診に診療所までくる自動車賃上げ料が
大部分でございます。

十九、負担金補助及び交付金三万円。千葉県国保直
診育英会館建設負担金でございますが、これは直診の
医師を確保するために直診の医師の所属の学校等に
かかわせるのに医師確保対策の一環として育英会館を
作るための負担金でございます。

二款医業費備品購入費において十数万。手術照明灯
購入。現在、照明灯が昭和三十八年ですが、当時七補
どにかう診療所から、払い下げみたいな形で照明灯で
ございますので、非常に手術をするのに困るというので
これを買いたいということでございます。

医療用消耗器材費、医薬品衛生材料費、六百三万五千
 円、合わせまして直診勘定におきまして六百四十四万九千円
 事業勘定におきまして六十四万七千円、合わせまして七百
 二十九万六千円の追加をお願いする次第でございます。
 それに対応する歳入といしまして事業勘定におきま
 しては、果費補助金一万一千円、前年度繰り越し金六十三
 万六千円、

直診勘定におきまして外来収入六百六十四万九千円、以上歳入
 歳出七百二十九万六千円、追加でございます。よろしくお願
 いいたします。

・議長(吉田勇治郎君)今日の会議はこれにて延会といえます。
 次会は明後十月二日午前十時開会といえます。

その議事は今日の議事を継続し、さらに追加議案の審議
 を行ないます。

午後三時五十分

延会

本日の会議に付いた事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名議員の決定

一 会期の決定

一 市長議案提案理由説明

一 報告第四号 議案第四十五号乃至第五十三号

議案説明

出席議員

吉田勇治郎

石井輝久

鳴田石蔵 伊賀多朗

藤田益治 儀辺博

白熊益太郎 黒川正

三勢勇 西村真次

菊井敏博 小柴孝

山田教宇 遠山ヨネ子

石井正 五十嵐昇

江田徳太郎 安西益男

中村省吾 関・武夫

小沢恵太郎 飯田義男

田中禄郎 田村源治郎

秋山六三郎 安沢徳順

望月照正 鈴木市蔵

山口康

大席議員

島野茂樹郎

